

1. 大豆入札取引の概況

(1) 取引参加者登録状況

売り手登録者は、前年産と同じく全農、全集連の2者であった。

買い手登録者は、法人、個人合わせて169者で前年産の180者から11者減少した。

また、同一の法人で本社、支社等がそれぞれ参加する場合にそれぞれを1とした事業所数ベースの登録者数は、175者で前年産の187者から12者減少した。(表I-1-1)

(以下、入札者数等は、事業所ベースによる。)

(2) 入札取引開催状況と入札参加状況

平成23年11月30日の第1回から平成24年7月18日の第14回まで開催した。月別には11月、12月、1月、7月各1回、2月～6月毎月2回開催した。(表I-1-2)

各回の入札者数は、第9回(4月25日)の94者が最も多く、第1回(11月30日)の30者が最も少なかったが、各回とも前年産の同時期を上回った。(図I-1-1)

入札回数別買い手登録者の分布をみると、前年産に比較して入札回数11回以上者の割合が前年産10%から23%に増え、一度も入札しなかった者は、前年産38%から25%に減った。(表I-1-3)

(3) 国産大豆の需給と入札取引数量

平成23年産大豆の生産は、作付面積は、全国で1千ヘクタールの減少、作柄は前年産をやや下回り、収穫量は、前年産に比べ3千7百トン減少し、21万9千トンとなった。(表I-1-4)

地域別にみると東日本大震災の被害があった東北地方では作付面積は2千5百ヘクタール減少したものの、作柄が前年産を上回ったため、収穫量は4百トンの減少に止まった。また、東海地方で8月末から9月初めにかけての台風に伴う大雨の影響で作柄が低下し、収穫量は前年産に比べて5千2百トン減少した。作付面積が2千ヘクタール増加した北海道では、収穫量が2千トンの増加となった。

国産大豆の需給状況を示す。(表I-1-5)

平成23年産は、収穫量の減少にもかかわらず、農産物検査数量は、前年産並であったものの、全農、全集連の集荷数量は前年産に対し2千4百トン減の17万2千トンとなった。

入札取引による販売数量(以下、「落札数量」という。)の割合は、20年産以降22年産まで11%で推移したが、23年産では、21%となった。

平成19年産から23年産までの月別の落札数量と平均落札価格の推移をグラ

フに示す。(図 I-1-2)

各月の落札数量は、19年産から大きく減少した20年産以降、毎年産、低調な取引で推移した。平成23年産では、取引開始初期には、落札量、平均落札価格とも前年産と同様の動きを示したが、2月以降入札の増加により落札数量も増加し、平均落札価格は上昇に転じた。7月には平均落札価格が60kg当たり1万円を超えて当年産の入札取引を終了した。

売り手の販売数量を入札取引、相対取引、契約栽培取引の3種類の販売方法別数量に区分してみると、販売数量の合計は、前年産と同じであるが、入札による販売数量は、平成20年産以降2万トン台で推移したものが、23年産では3万6千トンに回復し、契約栽培取引も少し増加し、相対取引による数量が22年産の94千トンから▲24千トン減の7万トンとなった。(図 I-1-3, 表 I-1-6)

産地品種銘柄毎の集荷数量と落札数量を比較したのが表 I-1-7である。

主要な銘柄のうち、集荷数量に対する落札数量の割合(落札割合)が30%を上回った銘柄は、フクユタカ、エンレイ等豆腐原料となる各産地の銘柄である。

一方1%を下回った銘柄には、納豆原料として利用される小粒・極小粒銘柄の北海道スズマル、ユキシズカ、茨城納豆小粒が含まれた。

(4) 入札・落札状況

入札状況を上場・入札ロット数の比較で見ると、全期間を通じて入札ロット数が上場ロット数を上回り、特に入札ロット数を上場ロット数で除した割合(入札倍率)は、2月以降2倍以上の状況が続いた。(表 I-1-2、図 I-1-4)

落札結果をみると、2月以降以降競争の結果による不落札が不落札の大部分を占めるようになり、前年産まで大きい部分を占めた落札下限価格未達による不落札が少ない状況で推移した。(図 I-1-5)

月別落札状況は、表 I-1-8のとおりである。

上場数量に対する落札数量の割合(落札率)は、高い水準で推移し、年産平均では60.2%となり、平成22年産の32.3%、21年産の19.6%を大きく上回った。(表 I-1-8、図 I-1-6)

各月までの落札数量の累積グラフをみると、前年産、前々年産と異なる形で推移し、4月までに前年産を上回った。(図 I-1-7)

(5) 落札価格

1俵(60kg)当たり年産平均落札価格は、前年産(6,829円)を上回る、8,299円であった。(表 I-1-9)

月別平均価格の推移を見ると2月までは7,000円水準で推移したが、3月以降月を追って上昇し、7月に1万円を超えて当年産の取引を終了した。(図 I-1-8)

当協会が入札取引を開始した平成12年産以降の年産別平均落札価格の推移をみると、平成15年産、16年産において連続して前年産より5千円以上の価格

上昇がみられたが、当年産では、前年産に比べて1千円強の価格上昇であった。
(図 I - 1 - 9)

産地品種銘柄別の落札価格をみると、ほとんどの銘柄は前年産に比べて価格が上昇したが、主要な銘柄では東海地方での気象災害で減収した岐阜・愛知・三重フクユタカが2千円以上の上昇となった。また、主要な豆腐原料用銘柄である佐賀・福岡フクユタカ、同じく富山・新潟等北陸産エンレイが1千～2千円の上昇となった。落札数量が最も多いとよまさりも前年産を1千円以上上回った。(表I-1-10)

主要産地品種銘柄のうち、代表的なものの月別落札価格の推移を過年産と比較したグラフを以下に示す。(図I-1-10～12)

主に豆腐用に仕向けられる銘柄のうち、気象災害により減収した愛知フクユタカは、取引開始時から前年産価格を上回り、その後上昇が続いた。九州の福岡・佐賀産フクユタカは、取引初期には前年並み価格で始まったが、その後上昇傾向を示した。(図I-1-10)

新潟県を始め、主に日本海沿岸各県で生産されるエンレイも初めは前年産の価格水準で推移したものの、その後大きく上昇した。(図I-1-11)

北海道の代表的銘柄である北海道とよまさりは、前半、前年産の水準で推移したが、後半に至って急激に上昇した。(図I-1-12)

とよまさりを構成する各品種の落札状況をみると、主に豆腐用に仕向けられるトヨムスメと主に煮豆等に仕向けられるユキホマレがその大部分を占める。

このうち、トヨムスメは、平成21年産～23年産では、落札数量1千トン台、落札率50%以上で推移したが、最も供給量の多いユキホマレは、平成21～22年産の落札率は、11～12%であったものが、平成23年産では、74%となり、落札価格もとよまさり平均を約300円上回った。(表I-1-11)

代表的な納豆仕向用銘柄である北海道スズマル、ユキシズカ、茨城納豆小粒の落札状況を示す。(図I-1-13、表I-1-12、13)

落札が少なかった平成22年産をさらに下回る落札数量となり、落札率は、3銘柄平均で5.3%から0.7%に低下した。

内外の大豆価格の推移を示す。(図I-1-14)

国内産と同じ用途と考えられる海上コンテナによる輸入大豆の価格は、前年に引き続き、4,000円程度で推移したが、前年産まで7,000円程度で安定的に推移した国内産価格が急激に上昇に転じたため、内外価格差が拡大する状況となった。

平成23年産大豆入札取引年報

I - 1 図・表

表 I-1-1 登録者数推移

年産	売り手		買い手	
	登録者数	うち 全国団体	登録者数 (事業体数)	(事業所数)
平成12年産	6	2	140	
平成13年産	2	2	148	
平成14年産	2	2	161	
平成15年産	2	2	180	187
平成16年産	2	2	185	193
平成17年産	2	2	181	189
平成18年産	2	2	184	192
平成19年産	2	2	180	187
平成20年産	2	2	182	189
平成21年産	2	2	184	191
平成22年産	2	2	180	187
平成23年産	2	2	169	175
増減	0	0	-11	-12
平成22年産買い手登録者の 内、23年産の登録をしない者			-14	-15
新規買い手登録者			3	3

注1. 買い手登録者数(事業所数)は、同一企業で複数の事業所(本店、支店等)を登録した場合、それぞれを1と数えた数である。

注2. 継続には、会社組織が変更になる等で新規の組織が以前の組織から業務を承継した場合を含む。

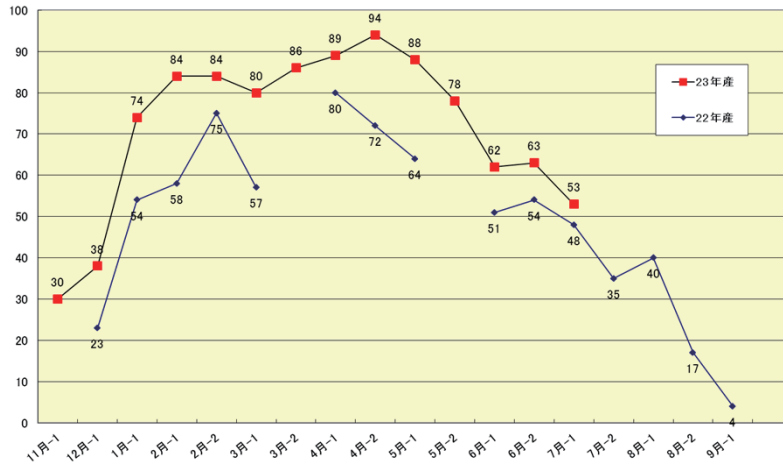
1

表 I-1-2 開催状況

入札回	入札日	上場者	入札者	ロット数		
				上場	入札	入札/上場
1	11月30日	1	30	71	91	1.3
11月計				71	91	1.3
2	12月14日	1	38	173	221	1.3
12月計				173	221	1.3
3	1月18日	2	74	346	576	1.7
1月計				346	576	1.7
4	2月8日	2	84	464	900	1.9
5	2月22日	2	84	483	1,085	2.2
2月計				947	1,985	2.1
6	3月7日	2	80	542	1,043	1.9
7	3月21日	2	86	489	1,096	2.2
3月計				1,031	2,139	2.1
8	4月11日	2	89	316	871	2.8
9	4月25日	2	94	341	1,158	3.4
4月計				657	2,029	3.1
10	5月16日	2	88	254	986	3.9
11	5月30日	1	78	275	1,008	3.7
5月計				529	1,994	3.8
12	6月13日	1	62	298	987	3.3
13	6月27日	1	63	335	821	2.5
6月計				633	1,808	2.9
14	7月18日	2	53	238	759	3.2
7月計				238	759	3.2
計				4,625	11,602	2.5

2

図 I-1-1 各回入札者数推移



3

表 I-1-3 入札回数別買い手登録者数(年産比較)

区分	平成20年産 (19回)	平成21年産 (17回)	平成22年産 (15回)	平成23年産 (14回)	割合			
					平成20年産	平成21年産	平成22年産	平成23年産
買い手登録者数	189	191	187	173	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0回	56	66	71	43	29.6%	34.6%	38.0%	24.9%
1~5回	52	60	52	46	27.5%	31.4%	27.8%	26.6%
6~10回	42	37	46	45	22.2%	19.4%	24.6%	26.0%
11回以上	39	28	18	39	20.6%	14.7%	9.6%	22.5%

4

表 I-1-4 大豆生産概況

	20年産	21年産	22年産	23年産	対前年増減
作付け面積 (ha)					
全国	147,100	145,400	137,700	136,700	-1,000
北海道	24,000	24,500	24,400	26,400	2,000
都府県	123,100	120,900	113,200	110,300	-2,900
うち東北	42,700	41,600	37,700	35,200	-2,500
うち東海	10,600	10,700	11,100	11,600	500
収穫量(t)					
全国	261,700	229,900	222,500	218,800	-3,700
北海道	56,800	48,500	57,800	59,900	2,100
都府県	204,900	181,400	164,700	158,900	-5,800
うち東北	61,900	57,000	48,100	47,700	-400
うち東海	16,200	9,880	17,500	12,300	-5,200
単収(kg/10a)					
全国	178	158	162	160	-2
北海道	237	198	237	227	-10
都府県	166	150	145	144	-1
うち東北	145	137	128	136	8
うち東海	153	92	158	106	-52

資料. 農林水産省作物統計

5

表 I-1-5 国産大豆需給の推移

事項	(単位)	平成18年産	平成19年産	平成20年産	平成21年産 a	平成22年産 b	平成23年産 c	増減 b-c
作付面積	ha	142,100	138,300	147,100	145,400	137,700	136,700	-1,000
①収穫量	トン	229,200	226,700	261,700	229,900	222,500	218,800	-3,700
②検査数量	トン	172,780	184,649	218,771	193,448	188,022	187,645	-377
普通・特定加工用 ^{②a}	トン	171,762	183,170	216,862	191,270	186,237	185,788	-449
種子用	トン	1,017	1,480	1,909	2,177	1,785	1,858	73
①-②		56,420	42,051	42,929	36,452	34,478	31,155	-3,323
③集荷数量	トン	163,019	173,828	204,013	179,506	173,963	171,599	-2,364
②a-③	トン	8,743	9,342	12,849	11,764	12,274	14,189	1,915
④落札数量	トン	34,407	58,880	24,211	19,980	20,667	36,202	15,535
③-④ (契約栽培取引・ 相対取引計)	トン	128,612	114,948	179,802	159,527	153,296	135,397	-17,899
④/③ (落札数量割合)	%	21.1%	33.9%	11.9%	11.1%	11.9%	21.1%	

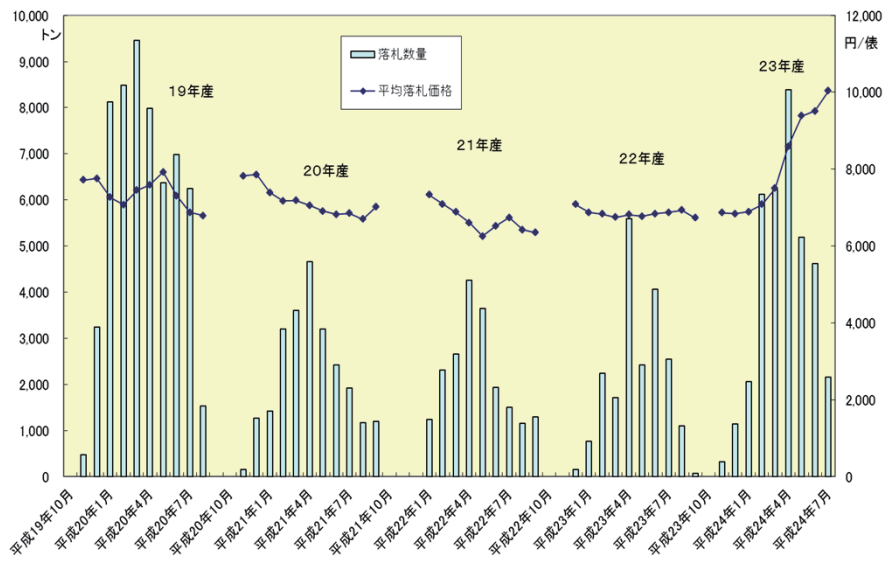
注1. 平成22年産検査数量(b欄)は、平成23年5月20日に農水省が公表した3月31日現在の確定値であり、東北地方太平洋沖地震の被災地については、一部未集計としている。

注2. 平成22年産の③集荷数量、④落札数量には、東日本大震災の被害によって減失した数量や被災大豆として本来の用途以外の用途に販売した数量を含む。

資料. 農林水産省作物統計、農林水産省生産局大豆検査結果

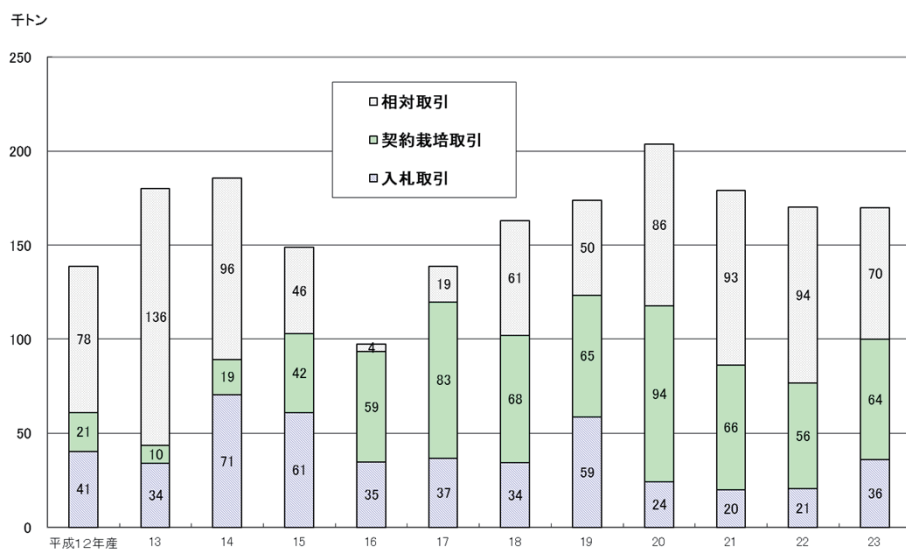
6

図 I - 1 - 2 月別落札数量・平均落札価格の推移



7

図 I - 1 - 3 販売方法別販売数量の推移



8

表 I - 1 - 6

年産	数量(トン)				割合(%)		
	入札取引	相対取引	契約栽培取引	計	入札取引	相対取引	契約栽培取引
平成12年産	40,563	77,768	20,541	138,872	29.2%	56.0%	14.8%
13	34,051	136,313	9,624	179,988	18.9%	75.7%	5.3%
14	70,637	96,458	18,767	185,862	38.0%	51.9%	10.1%
15	60,936	45,893	41,993	148,822	40.9%	30.8%	28.2%
16	34,772	4,164	58,701	97,637	35.6%	4.3%	60.1%
17	36,866	18,835	83,034	138,735	26.6%	13.6%	59.9%
18	34,407	60,983	67,629	163,019	21.1%	37.4%	41.5%
19	58,879	50,410	64,540	173,829	33.9%	29.0%	37.1%
20	24,211	86,075	93,599	203,885	11.9%	42.2%	45.9%
21	19,980	92,925	66,363	179,268	11.1%	51.8%	37.0%
22	20,601	93,610	56,110	170,321	12.1%	55.0%	32.9%
23	36,191	69,852	63,848	169,891	21.3%	41.1%	37.6%

9

表 I - 1 - 7 産地品種銘柄別落札実績
(産地品種銘柄の品種で粒区分で産地品種銘柄に該当しない数量を含む。)
単位:トン

① 集荷数量に対する落札数量の割合が30%以上の産地品種銘柄

産地品種	集荷数量	落札数量	落札数量 /集荷数量
島根県フクユタカ	128	89	69.5%
福井県あやこがね	57	36	62.6%
鳥取県すずこがね	11	6	52.9%
山口県フクユタカ	159	82	51.6%
長野県タチナガハ	175	87	49.6%
愛媛県フクユタカ	444	218	49.1%
千葉県タチナガハ	44	21	48.0%
山形県里のほほえみ	260	120	46.0%
滋賀県タマホマレ	804	359	44.6%
大分県フクユタカ	1,104	488	44.2%
島根県タマホマレ	92	40	43.1%
滋賀県ことゆたか	1,519	641	42.2%
佐賀県むらゆたか	2,619	1,049	40.1%
石川県あやこがね	197	70	35.7%
福井県エンレイ	1,061	371	35.0%
三重県フクユタカ	3,263	1,136	34.8%
熊本県フクユタカ	3,476	1,192	34.3%
岐阜県フクユタカ	3,188	1,089	34.2%
静岡県フクユタカ	188	64	34.1%
福岡県フクユタカ	15,606	5,120	32.8%
石川県コスズ	27	9	31.8%
富山県エンレイ	5,670	1,798	31.7%
新潟県エンレイ	7,209	2,238	31.0%
石川県エンレイ	1,748	533	30.5%

10

② 集荷数量に対する落札数量の割合が30%未満の産地品種銘柄

産地品種	集荷数量	落札数量	落札数量 /集荷数量	産地品種	集荷数量	落札数量	落札数量 /集荷数量
山形県エンレイ	3,656	1,036	28.3%	宮崎県フクユタカ	162	20	12.2%
青森県おおすず	5,141	1,425	27.7%	大分県むらゆたか	377	45	12.0%
北海道音更太袖振	809	220	27.2%	宮城県ミヤギシロメ	4,564	538	11.8%
佐賀県フクユタカ	15,853	4,275	27.0%	岩手県リュウホウ	1,686	181	10.8%
愛知県フクユタカ	4,072	1,073	26.4%	宮城県タチナガハ	3,655	381	10.4%
山口県サチユタカ	429	106	24.6%	宮城県あやこがね	516	51	9.9%
富山県オオツル	477	115	24.0%	宮城県タムレイ	4,562	448	9.8%
千葉県フクユタカ	444	107	24.0%	兵庫県サチユタカ	207	18	8.7%
群馬県タチナガハ	128	30	23.7%	岡山県トヨシロメ	123	10	8.4%
滋賀県フクユタカ	2,888	676	23.4%	岩手県ナンピンシロメ	1,596	109	6.8%
北海道秋田	1,026	218	21.2%	栃木県タチナガハ	4,272	288	6.8%
兵庫県オオツル	31	7	21.2%	山形県リュウホウ	967	58	6.0%
秋田県リュウホウ	7,206	1,496	20.8%	長野県ナカセンナリ	1,440	43	3.0%
滋賀県オオツル	1,451	279	19.2%	茨城県タチナガハ	1,883	41	2.2%
北海道とよまさり	30,858	5,866	19.0%	長崎県フクユタカ	471	10	2.1%
岡山県サチユタカ	54	9	17.1%	北海道スズマル	5,274	50	0.9%
兵庫県夢さよう	102	15	14.8%	鳥取県タマホマレ	81	1	0.7%
鳥根県サチユタカ	203	30	14.6%	茨城県納豆小粒	2,370	11	0.4%
鳥取県サチユタカ	370	53	14.3%	北海道ユキシズカ	5,944	10	0.2%

11

③ 落札実績のない産地品種銘柄

単位:トン

産地品種	集荷数量	産地品種	集荷数量	産地品種	集荷数量
福島県タチナガハ	835	山形県すずかおり	51	北海道スズヒメ	14
宮城県きぬさやか	414	北海道ゆきひりか	50	岩手県とよまさり	12
福島県あやこがね	395	熊本県むらゆたか	49	岩手県すずほのか	10
新潟県あやこがね	345	岩手県スズカリ	48	山形県スズユタカ	10
北海道ハヤヒカリ	337	滋賀県エンレイ	47	福岡県キヨミドリ	9
北海道ツルムスメ	323	北海道太袖振	43	鹿児島県すずおとめ	9
富山県シユウレイ	293	長野県すずろまん	43	宮城県コスズ	8
宮城県すずほのか	270	秋田県サチユタカ	41	鳥根県ナカセンナリ	7
広島県サチユタカ	265	奈良県サチユタカ	41	栃木県里のほほえみ	6
山形県あやこがね	234	岐阜県タチナガハ	40	三重県オオツル	6
山形県タチユタカ	226	広島県アキシロメ	35	北海道つるの子	3
大分県トヨシロメ	222	千葉県サチユタカ	34	福島県おおすず	2
鹿児島県フクユタカ	217	三重県すずおとめ	31	福島県ふくいぶき	2
茨城県ハタユタカ	200	香川県フクユタカ	31	栃木県たまうらら	2
栃木県納豆小粒	194	岩手県コスズ	28	群馬県ハタユタカ	2
長野県ギンレイ	167	新潟県すずろまん	28	福井県フクユタカ	2
北海道太袖の舞	153	岩手県青丸くん	27	広島県ハタユタカ	2
兵庫県タマホマレ	151	栃木県なごみまる	24	愛媛県サチユタカ	2
埼玉県タチナガハ	125	埼玉県白光	24	福島県スズユタカ	1
長野県つぶほまれ	112	新潟県コスズ	20	埼玉県行田在来	1
福岡県すずおとめ	109	福島県すずほのか	19	岐阜県つやほまれ	1
高知県フクユタカ	101	秋田県おおすず	18	三重県タマホマレ	1
岩手県ミヤギシロメ	91	岡山県タマホマレ	18	奈良県あやみどり	1
新潟県タチナガハ	83	大分県すずおとめ	18	鳥取県エンレイ	1
秋田県コスズ	79	福島県コスズ	17	鳥根県その他	1
青森県オクシロメ	77	福井県里のほほえみ	16	佐賀県すずおとめ	1
石川県フクユタカ	69	福井県オオツル	14	大分県キヨミドリ	1
熊本県すずおとめ	55	福岡県むらゆたか	14		

12

図 I-1-4 入札回別上場・入札・落札ロット数推移

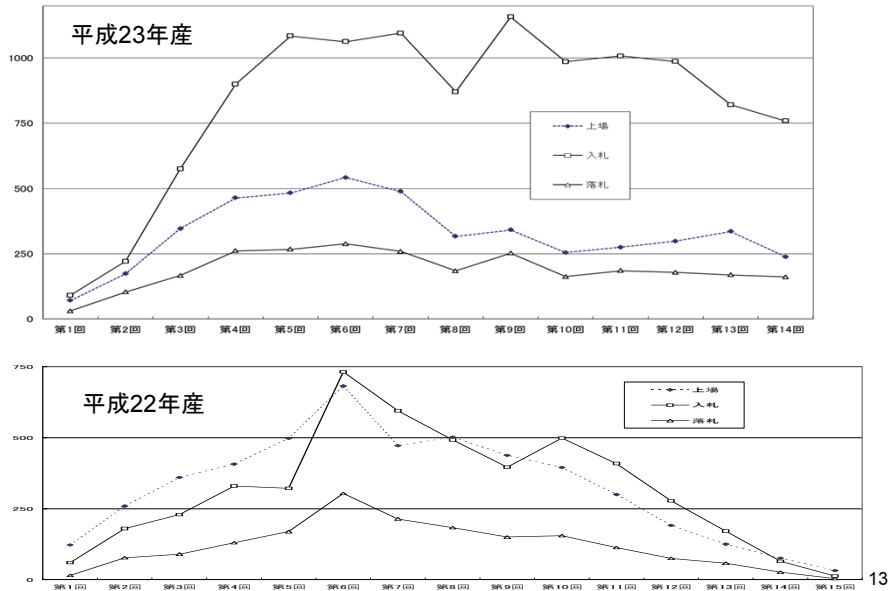
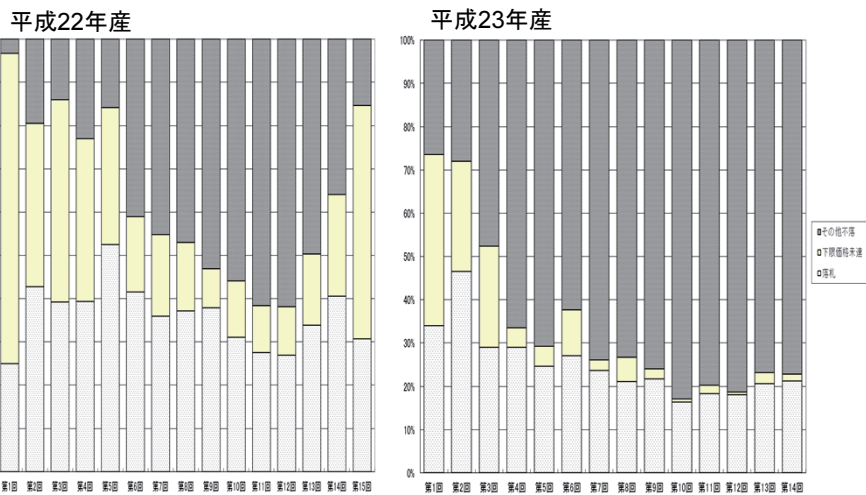


図 I-1-5 落札結果別ロット数分布



注: 各回の買い手入札ロットの計を100とした場合のロット数割合
 数値は、各区分のロット数
 下限価格未達とは落札下限価格未満の入札のための不落をいう。

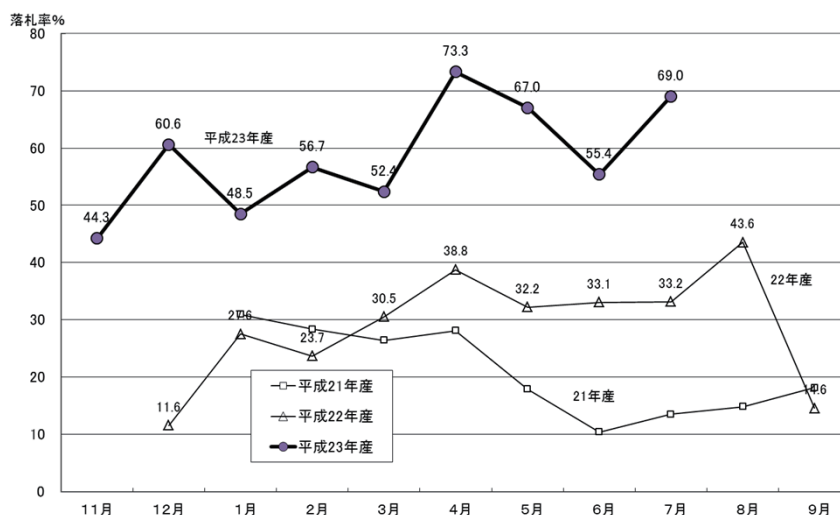
表 I-1-8 月別上場・落札数量・平均落札価格・落札率

区分	上場数量	落札数量	落札価格	落札率
	トン	トン	円/60kg	%
11月	710	314	6,864	44.3
1月	4,252	2,063	6,891	48.5
2月	10,788	6,114	7,080	56.7
3月	11,857	6,213	7,503	52.4
4月	11,451	8,394	8,591	73.3
5月	7,746	5,192	9,385	67.0
6月	8,336	4,619	9,511	55.4
7月	3,123	2,156	10,035	69.0
平成23年産計	60,139	36,202	8,299	60.2
22年産計	64,052	20,667	6,829	32.3
21年産計	102,180	19,980	6,654	19.6
20年産計	115,553	24,211	7,079	21.0

注. 普通大豆・特定加工用大豆合計及びその加重平均落札価格である。

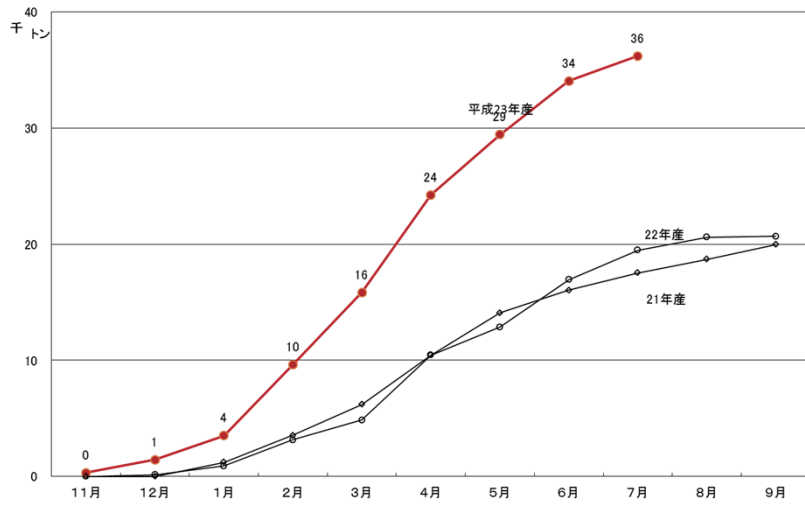
15

図1-1-6 月別落札率の推移(年産比較)



16

図 I-1-7 月別累積落札数量の推移(年産比較)



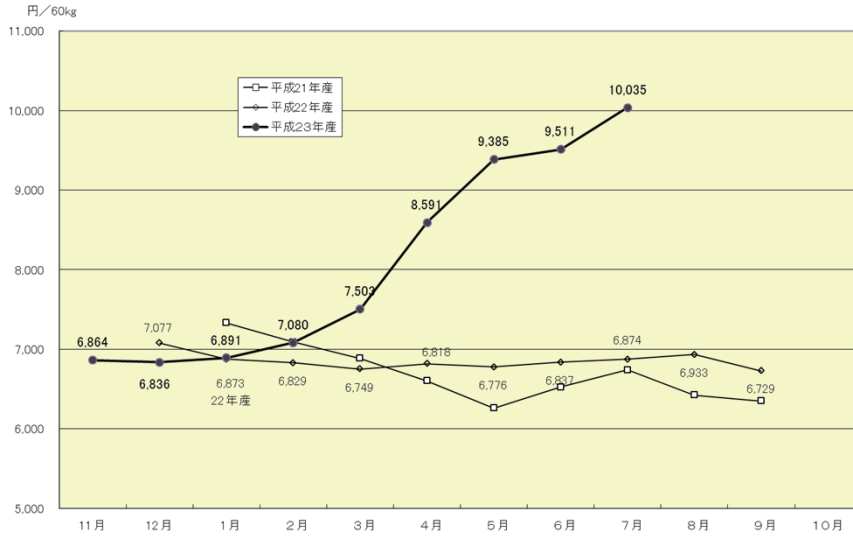
17

表 I-1-9 月別平均落札価格(普通大豆・19~23年産)

単位:円/60kg					
年産	19	20	21	22	23
11月	7,712	7,822			6,864
12月	7,757	7,855		7,077	6,836
1月	7,267	7,391	7,330	6,873	6,891
2月	7,073	7,173	7,088	6,829	7,080
3月	7,448	7,179	6,884	6,749	7,503
4月	7,588	7,060	6,603	6,818	8,591
5月	7,920	6,910	6,258	6,776	9,385
6月	7,311	6,822	6,525	6,837	9,511
7月	6,877	6,848	6,741	6,874	10,035
8月	6,792	6,700	6,422	6,933	
9月		7,027	6,348	6,729	
10月					
年産平均	7,364	7,079	6,654	6,829	8,299

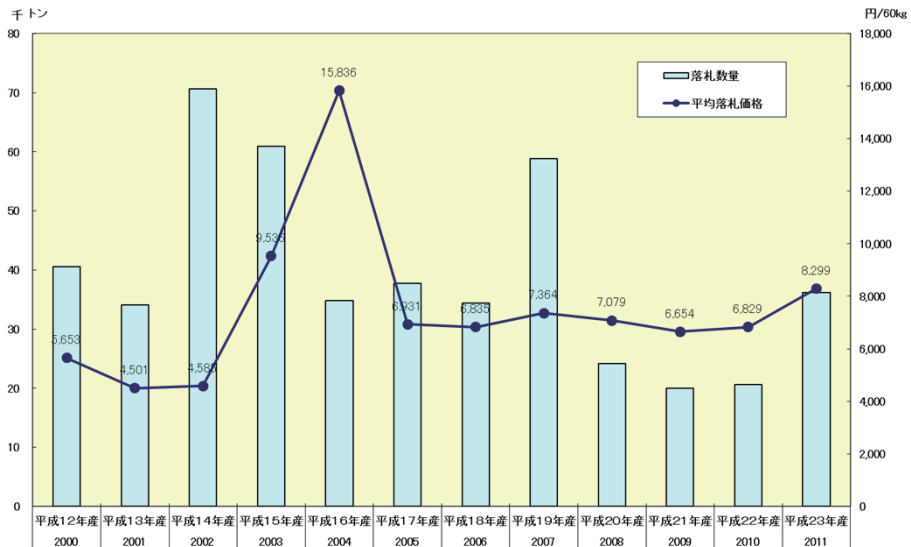
18

図 I - 1 - 8 月別平均落札価格の推移 (普通大豆・年産比較)



19

図 I - 1 - 9 年産別平均落札価格・落札数量推移



20

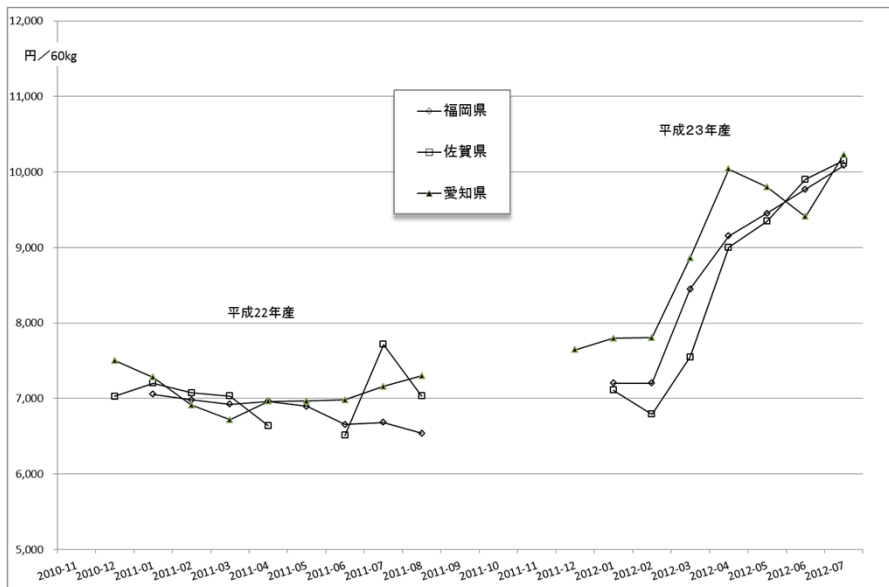
表 I-1-10 産地品種銘柄別落札価格(前年産比較・前年差降順)

産地品種	平成22年産	平成23年産	前年差	平成23年産 落札数量	産地品種	平成22年産	平成23年産	前年差	平成23年産 落札数量	単位:円/60kg、トン	
										前年差	平成23年産 落札数量
山形単のほほえみ	—	8,181	—	120	北海道とよまさり	6,548	7,678	1,130	5,866		
福井あやこがね	—	7,530	—	36	滋賀こゆたか	6,566	7,664	1,099	641		
千葉タチナガハ	—	6,755	—	21	福井エンレイ	6,504	7,578	1,074	371		
岡山トヨシロメ	7,478	10,520	3,041	10	大分フクユタカ	7,016	7,986	970	488		
島根フクユタカ	6,703	9,663	2,960	89	山形エンレイ	6,589	7,529	940	1,036		
山口フクユタカ	6,510	9,374	2,864	82	佐賀むらゆたか	7,055	7,975	920	1,049		
兵庫サチユタカ	7,205	10,045	2,840	18	群馬タチナガハ	6,708	7,577	870	30		
鳥取サチユタカ	6,604	9,350	2,746	53	滋賀タマホマレ	6,263	7,030	767	359		
鳥取タマホマレ	6,460	9,070	2,610	1	大分むらゆたか	7,055	7,744	689	45		
岡山サチユタカ	8,080	10,510	2,430	9	長野ナカセンナリ	7,395	8,046	651	43		
三重フクユタカ	6,863	9,298	2,425	1,136	秋田リュウホウ	6,536	7,106	570	1,496		
滋賀フクユタカ	6,620	8,855	2,235	676	青森おおすず	6,853	7,364	512	1,425		
愛知フクユタカ	7,004	9,228	2,224	1,073	茨城タチナガハ	6,683	7,083	400	41		
滋賀オオツル	6,813	9,036	2,223	279	岩手ナンブシロメ	6,452	6,735	283	109		
佐賀フクユタカ	7,141	9,343	2,201	4,275	北海道音更大補振	8,468	8,691	222	220		
岐阜フクユタカ	6,954	9,150	2,196	1,089	千葉フクユタカ	6,890	7,079	189	107		
長崎フクユタカ	7,168	9,350	2,182	10	岩手リュウホウ	6,933	7,079	145	181		
福岡フクユタカ	6,892	9,067	2,175	5,120	宮崎フクユタカ	6,820	6,880	60	20		
富山エンレイ	6,597	8,704	2,107	1,798	宮城タンレイ	6,603	6,656	53	448		
山口サチユタカ	6,624	8,710	2,086	106	北海道ユキシズカ	7,275	7,300	25	10		
熊本フクユタカ	6,925	8,822	1,897	1,192	宮城ミヤギシロメ	6,770	6,768	-2	538		
愛媛フクユタカ	6,723	8,615	1,891	218	栃木タチナガハ	6,737	6,702	-34	288		
静岡フクユタカ	6,509	8,367	1,858	64	北海道秋田	6,283	6,202	-82	218		
島根タマホマレ	6,473	8,330	1,857	40	宮城あやこがね	6,600	6,442	-158	51		
兵庫夢さよう	7,800	9,548	1,748	15	山形リュウホウ	6,677	6,458	-219	58		
鳥取サチユタカ	6,574	8,213	1,639	30	茨城納豆小粒	8,545	8,300	-245	11		
新潟エンレイ	6,745	8,245	1,499	2,238	北海道スズマル	8,210	7,860	-350	50		
石川エンレイ	6,255	7,597	1,341	533	宮城タチナガハ	7,095	6,694	-401	381		
富山オオツル	6,662	7,848	1,186	115							

注: 各県の産地品種銘柄に係る品種毎の大豆の平均落札価格である。当該品種の大豆であって、粒区分で産地品種銘柄に該当しない数量を含めて算出した。

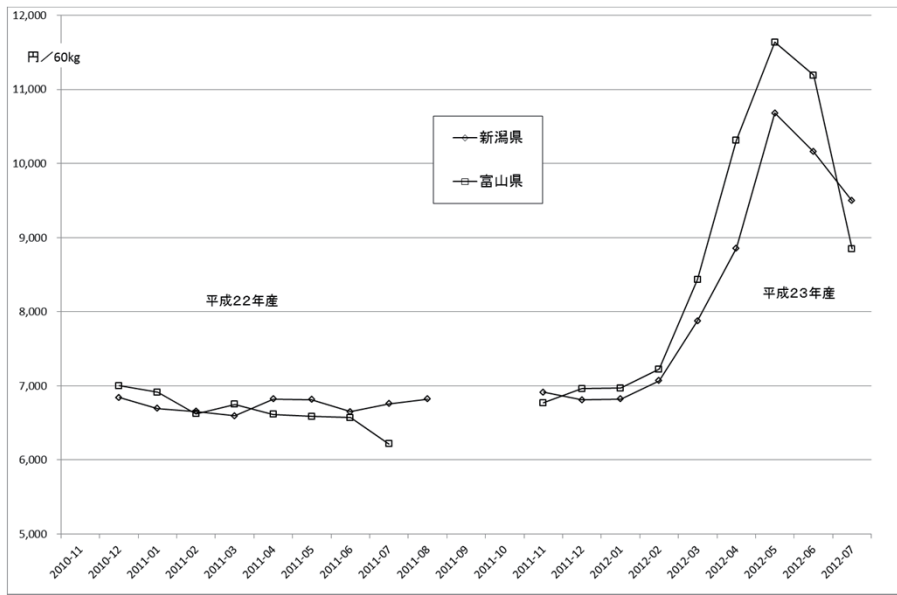
21

図 I-1-10 主要産地フクユタカ月別落札価格推移



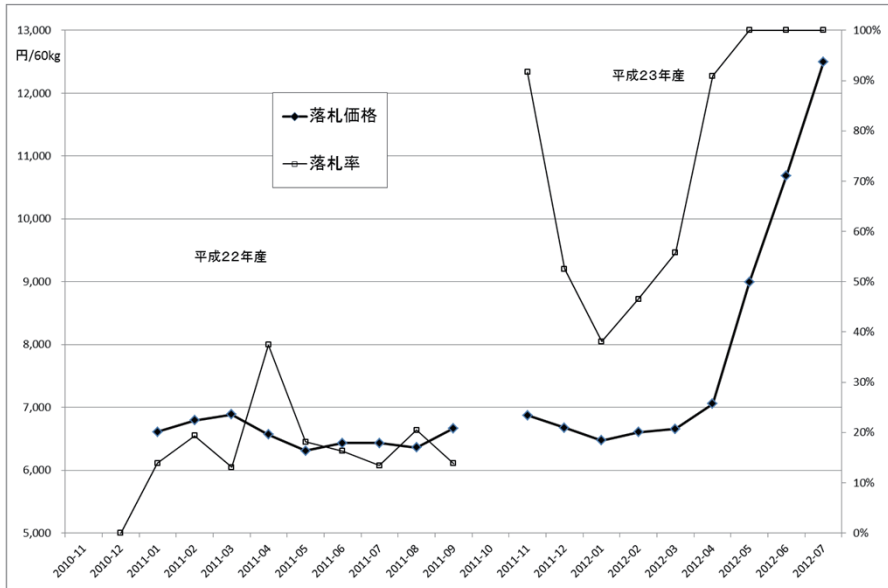
22

図 I-1-11 エンレイ主要産地月別落札価格推移



23

図 I-1-12 北海道とよまさり月別落札価格・落札率推移



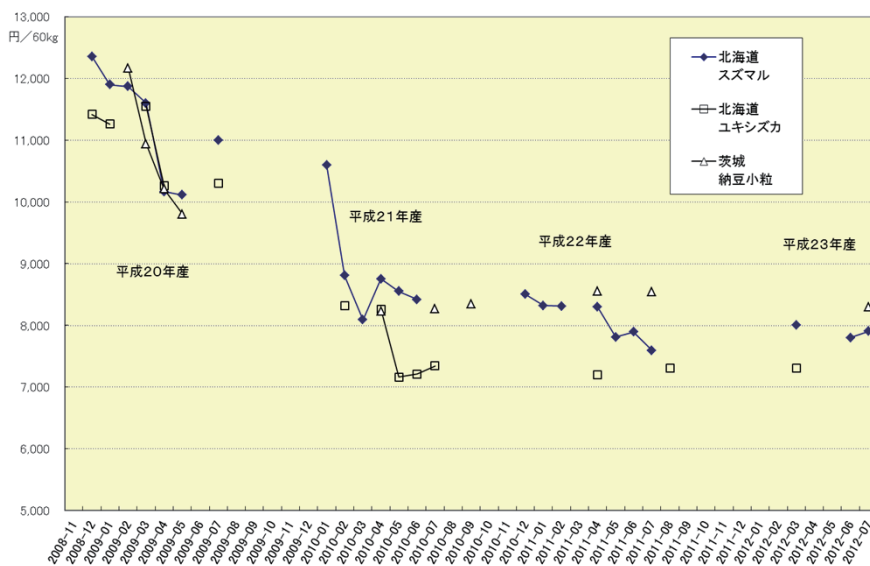
24

表 I - 1 - 11 北海道とよまさり品種別落札状況(年産比較)

事項	品種	平成20年産	平成21年産	平成22年産	平成23年産
落札価格 (円/60kg)	トヨムスメ	7,498	6,704	6,705	7,318
	トヨコマチ	7,520	5,795	6,549	7,161
	トヨホマレ	7,411	5,737	6,820	
	ユキホマレ	7,439	6,151	6,331	7,948
	トヨハルカ	7,286	5,981	6,310	6,730
	平均	7,445	6,266	6,548	7,678
落札数量 (トン)	トヨムスメ	445	1,009	1,362	1,576
	トヨコマチ	20	129	136	339
	トヨホマレ	90	129	11	0
	ユキホマレ	1,269	1,688	975	3,686
	トヨハルカ	89	416	22	265
	平均	1,913	3,371	2,507	5,866
落札率 (%)	トヨムスメ	15.4%	64.1%	56.0%	53.2%
	トヨコマチ	1.6%	9.0%	9.0%	55.5%
	トヨホマレ	9.2%	11.7%	11.2%	0.0%
	ユキホマレ	9.0%	10.5%	11.9%	73.6%
	トヨハルカ	5.7%	27.0%	10.4%	46.7%
	平均	9.2%	15.5%	20.1%	63.4%

25

図 I - 1 - 13 主要な納豆仕向銘柄の月別平均落札価格の推移



26

表 I-1-12 主要な納豆仕向銘柄落札状況(年産比較)

		単位:トン			
区分		平成20年産	平成21年産	平成22年産	平成23年産
上場数量	北海道スズマル	1,991	1,878	2,328	3,222
	北海道ユキシズカ	1,233	4,424	3,809	4,765
	茨城納豆小粒	1,370	1,628	1,004	1,893
	小計	4,593	7,929	7,142	9,880
落札数量	北海道スズマル	381	327	259	50
	北海道ユキシズカ	253	386	80	10
	茨城納豆小粒	347	169	40	11
	小計	981	882	379	70
落札率	北海道スズマル	19.1%	17.4%	11.1%	1.5%
	北海道ユキシズカ	20.5%	8.7%	2.1%	0.2%
	茨城納豆小粒	25.3%	10.4%	3.9%	0.6%
	小計	21.3%	11.1%	5.3%	0.7%

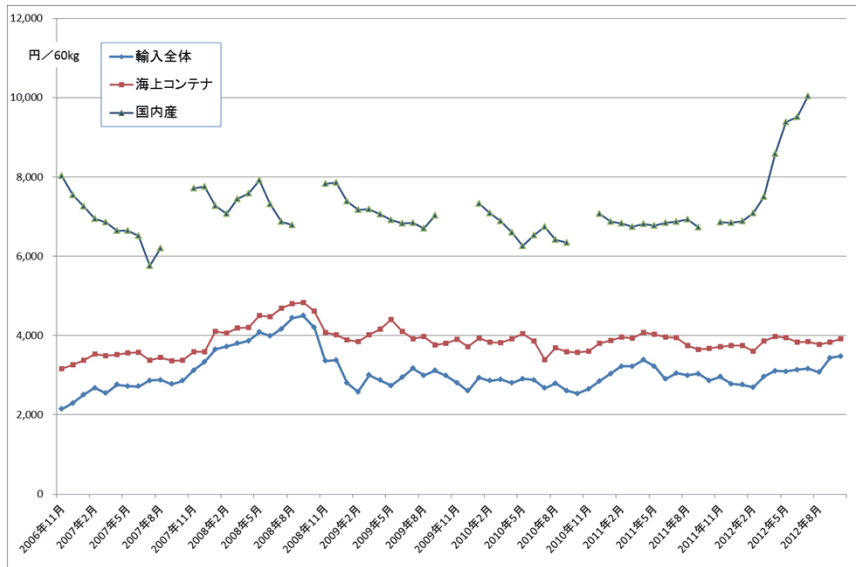
27

表 I-1-13 主要納豆仕向銘柄落札価格(年産比較)

		単位:円/60kg			
銘柄	平成20年産	平成21年産	平成22年産	平成23年産	
北海道スズマル	11,611	8,594	8,221	7,860	
北海道ユキシズカ	11,128	7,338	7,275	7,300	
茨城納豆小粒	12,043	8,251	8,545	8,300	
小計	11,639	7,978	8,055	7,847	

28

図 I - 1 - 14 内外大豆価格推移 (2006.11月～2012.10月)



資料. 国内産: 月別平均落札価格、輸入: 財務省貿易統計

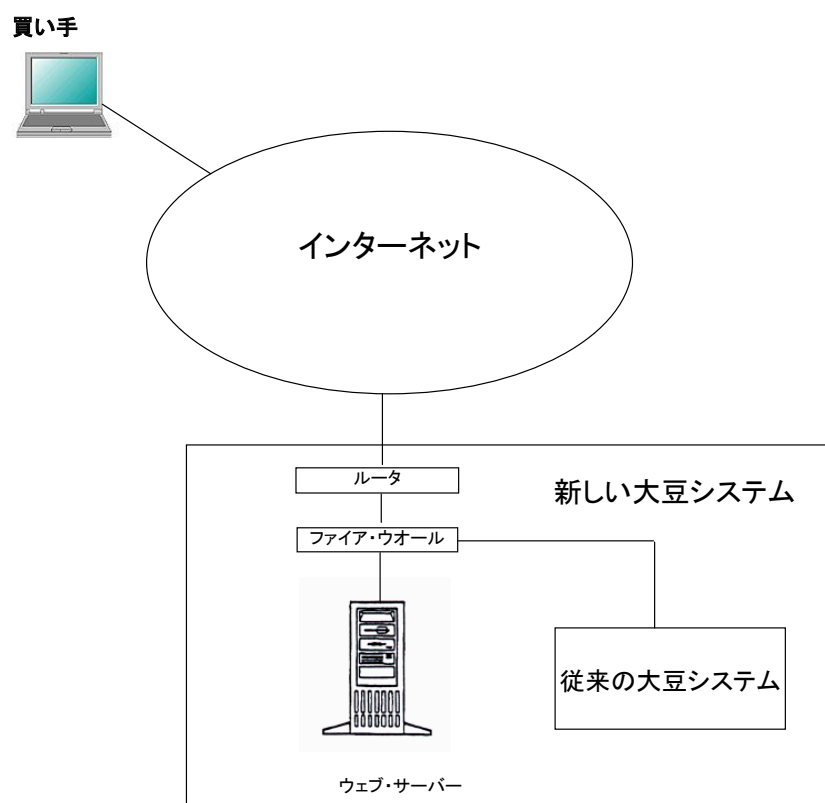
2. 大豆入札取引の運営に関する特記事項

(1) ウェブ入札システムの導入

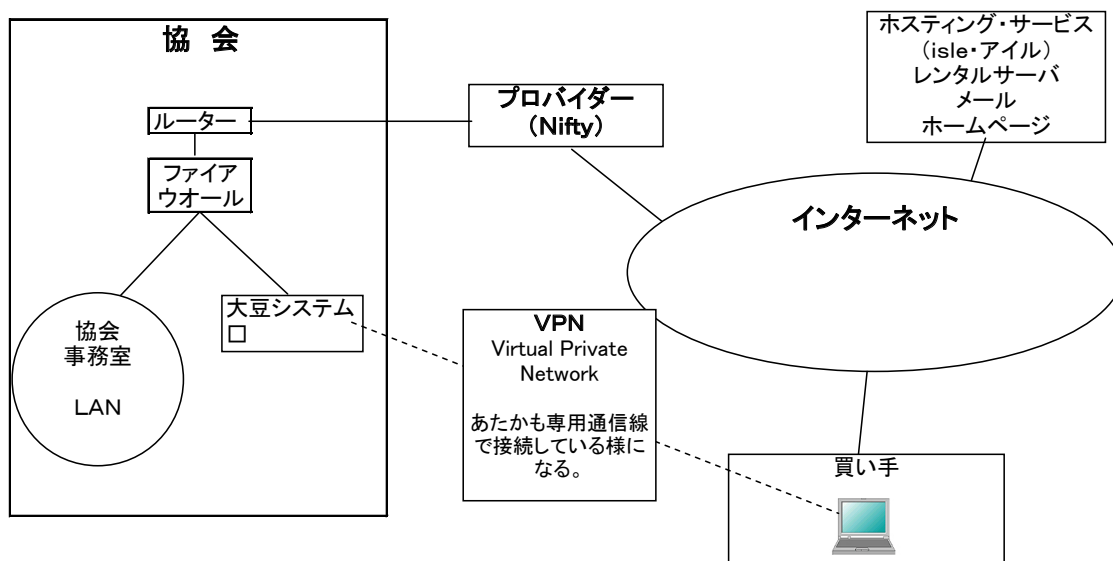
平成22年度において大豆入札取引システムにインターネットを通じて入札を行うことができる機能を付加するためのシステム（ウェブ入札システム）の開発を行った。

また、システム機器のリース契約の更改を行い、平成23年産大豆入札取引からウェブ入札システムの運用を開始するためのシステム機器の整備を行った。

システム概念図



インターネット接続概念図



経過

平成19年度

大豆入札Web化検討事業（富士通）

ウェブ入札方式の導入に関する買い手アンケート調査（平成20年2月）

平成20年度～21年度 検討を継続（情報収集等）

平成22年度

大豆ウェブ入札システムの開発

平成23年度

システム機器整備・システム運用開始

ウェブ入札システム導入のメリット

買い手：入札事務の簡便化、無効札の発生抑制（保証金不足、同一銘柄複数ロットに対する2以上の価格を自動的にチェック）、情報セキュリティの向上（通信信号の暗号化等）

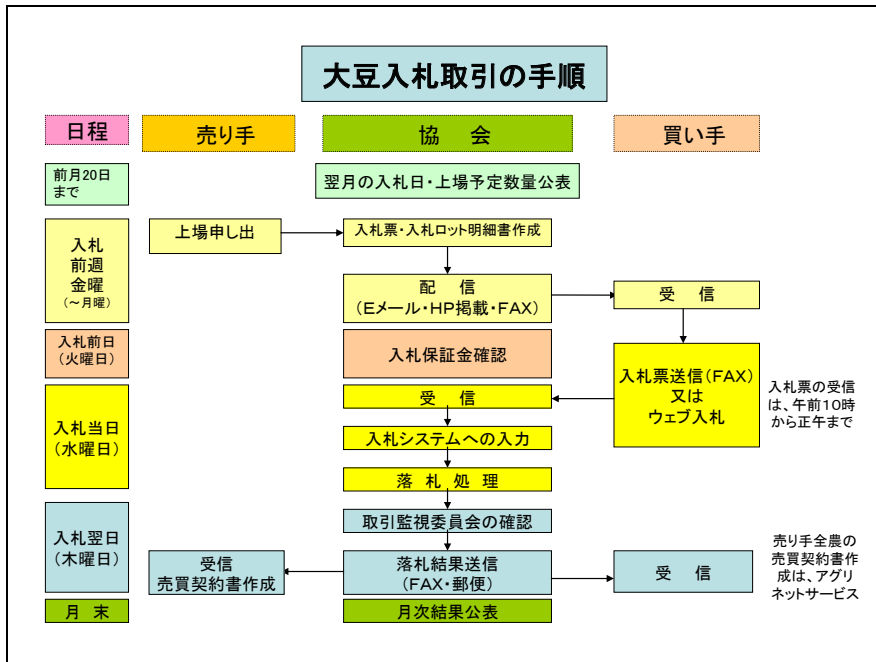
協会：ファックス入札の場合のパソコン入力作業の省略（派遣社員による入力作業費用の削減）、無効札の解消、不正入札（成りすまし）の防止

ウェブ入札システムによる入札取引

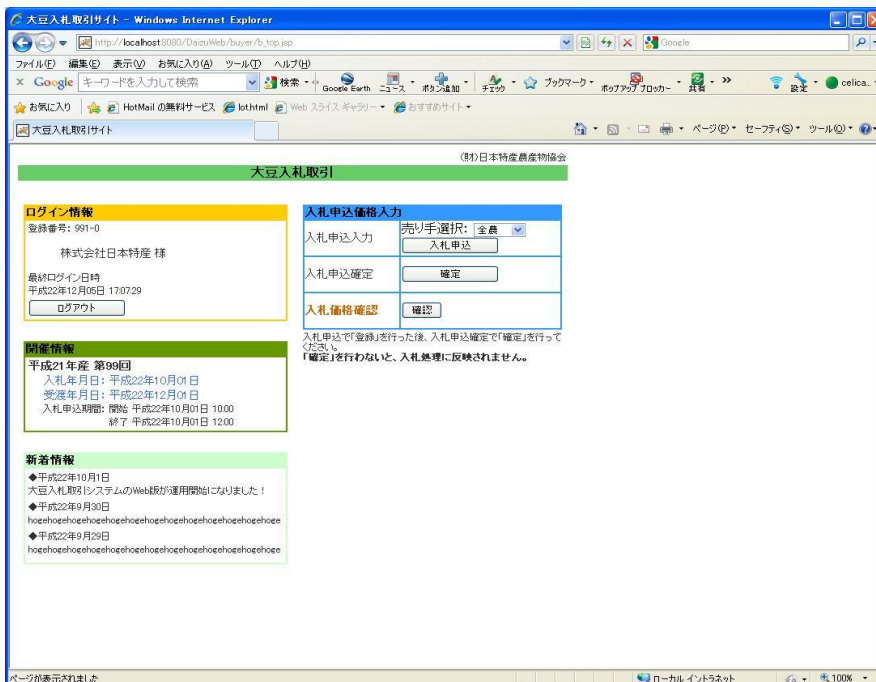
本システムの運用は、従来のファクシミリによる入札票の送受信による入札に追加して、買い手がパソコンでインターネットに接続し、協会の入札取引サイトにアクセスして、パソコンの画面上で入札情報を入力することで入札が行えるようになるものである。

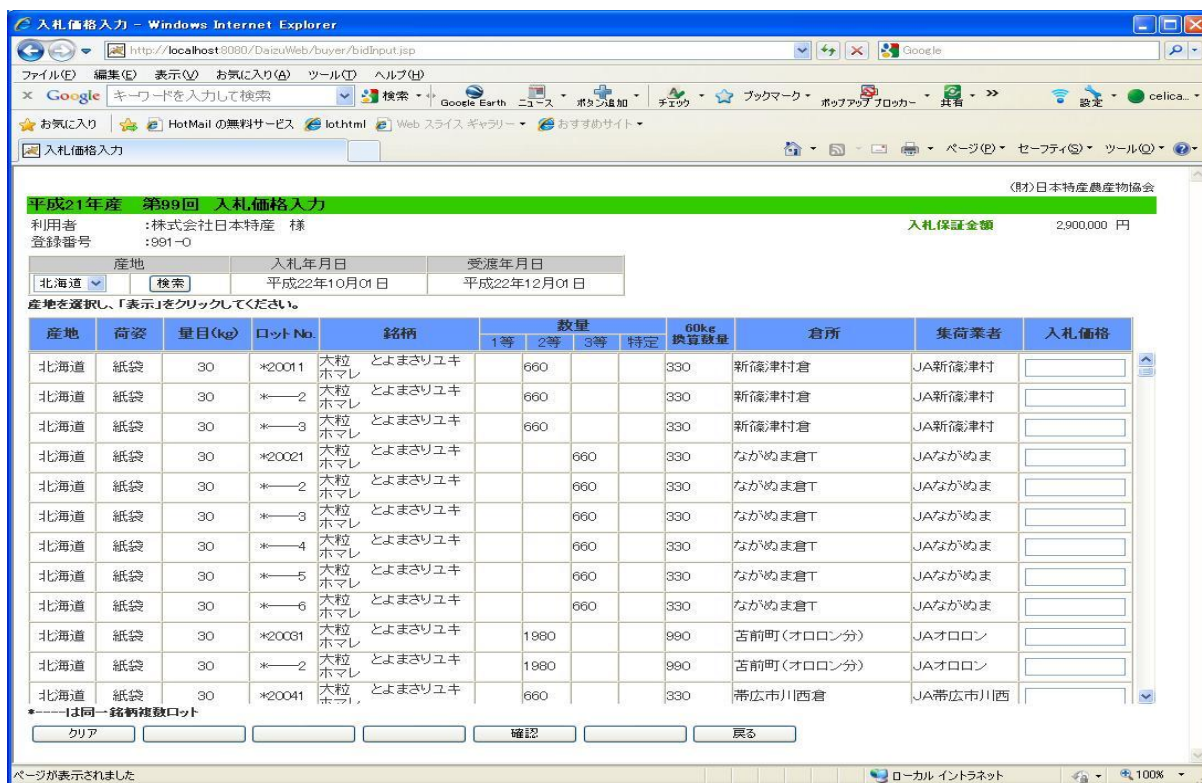
システム導入後の入札取引手順、ウェブ入札による買い手入札画面のイメージを示す。

システム導入後の大豆入札取引の手順



買い手入札画面のイメージ





入札取引に関する諸規定の見直し・改正

ウェブ入札システムの運用のため、所要の諸規定の整備を行った。

業務規程の改正

改正前	改正後
<p>(入札の方法)</p> <p>第19条 入札は、買い手（入札者）が入札票に購入希望のロット毎に入札価格を算用数字で記入し、入札票毎に登録申請時に届け出た入札者名を記入し、登録申請時の届出印を押印の上、実施期日当日、原則として午前10時から12時までの間に到着するよう、ファクシミリで協会に送付することにより行うものとする。</p>	<p>同左</p>
	<p>(追加)</p> <p>2 買い手は、前項によらず、インターネットに接続したコンピュータを用いて、協会がインターネット上に開設する入札取引サイトから入札することができる。その方法については、協会が別途定める。</p>

買い手登録者遵守事項における関係規定の追加

前年産までの規定	新たな規定
<p>第17条（入札） 買い手（入札者）は、所定の入札票に登録者の名称等所要事項及び買受けを希望するロット毎に入札価格（60kg当たり包装代込み産地倉庫戸前渡し価格。消費税を含まない。）を記入し、入札取引実施日の午前10時から12時（正午）までの間に協会の入札取引専用ファックス番号あてにファックス送信することにより入札します。但し、協会は、次の場合には、入札を受け付けません。 （以下、略）</p>	<p>（追加） 2 買い手は、前項によらず、インターネットに接続したコンピュータにより、オンラインで入札を行うことができます。その方法は、協会が定めるウェブ入札システム手順書に依ります。</p>

買い手のウェブ入札の利用は、以下の手続き及び手順による。

- ① ウェブ入札利用を希望する買い手からの申請。
- ② 協会は、申請のあった買い手について、ウェブ入札のためのID及びパスワードを設定し、それを記載した承認通知を発出する。
- ③ 買い手は、入札取引当日、インターネットの協会のサイトの登録者ページにアクセスし、そのページに設けられたウェブ入札取引サイトへの入り口からID、パスワードを入力して、ウェブ入札取引サイトに入室する。
- ④ 画面の指示に従って入札データを入力する。
- ⑤ 入力データを確認して確定操作を行う。それにより、入札データが協会の入札サーバーに登録されるとともに、自動的に入札データを受け付けた旨を電子メールで入札者に通知する。

試行

買い手登録者のうち、入札頻度が高く、入札ロットが多い傾向のある買い手3者を選択し、試行的にウェブ入札を利用するよう要請した。3者のうち、1者は、自社の都合により利用を見合わせたが、2者がウェブシステムによる実際の入札を実施した。

課題

実際の運用において買い手からの指摘によって若干の設定事項の変更を行ったが、概ね、順調に行うことができた。

買い手から、社内での確認のため、入力結果を確認するための帳票を印字出力する機能の追加について要望があり、今後の検討課題とした。

(2) 年産入札取引開始の準備

平成23年8月

協会ホームページにおいて平成23年産大豆入札取引登録に関する以下の案内を行った。

新規売り手登録申請受付案内

新規買い手登録申請受付案内

平成22年産売り手登録者及び買い手登録者に対し、平成23年産取引のための登録手続きについて、文書で案内した。

(3) 年産入札取引運営方針

平成23年10月23日開催の入札取引委員会において以下の運営方針を申し合わせた。

① 月別入札取引回数の予定

月2回実施を基本とし、必要に応じて調整する。

② 落札大豆の受渡期限

入札日から60日以内（前年産と同じ）

③ 入札取引結果の公表

各月の次の集計値を資料に取りまとめ、各月月末（休日等の関係で日程は適宜調整する。）に登録者に配付・公表する。

(ア) 普通大豆・特定加工用大豆別産地品種銘柄等・粒別上場数量、落札数量、落札価格

(イ) 平均落札価格（普通大豆・特定加工用大豆加重平均値）

配付・公表の方法：登録者に郵送、インターネットの協会サイトに掲出、農林水産省内記者クラブ等に配布

(4) 取引監視

年産の取引開始時点の平成23年11月9日に取引監視委員会全体委員会を開催し、監視の方針について審議した。

また、入札取引実施回ごとに3名の委員が立ち会い、不正がないことを確認した。

取引終了後の平成24年9月14日に取引監視委員会全体委員会を開催し、監視経過について審議した。

無効札の状況について、下表の通り報告した。

前年産において皆無であった無効ロットは、入札ロット数の大幅な増加や入札価格の上昇により保証金残高の10倍までとした入札金額を超えることにより無効となったロット数が169に達した。

年産別無効札

年産	入札ロット数	無効札 ロット数	うち保証 金関係	有効札 ロット数
平成18年産	7,831	54	30	7,777
平成19年産	13,563	231	215	13,332
平成20年産	5,328	16	7	5,312
平成21年産	3,319	12	0	3,307
平成22年産	4,770	0	0	4,770
平成23年産	11,602	169	169	11,433

3. 平成23年産入札取引に係る平成23年度協会業務・財務資料

(入札取引業務部分抜粋)

(注:平成23年産大豆についての入札取引は、平成23年11月から平成24年10月に実施されるため、会計年度は平成23、24年度となる。)

(1)平成23年3月25日開催の平成22年度第3回評議員会及び第2回理事会において、平成23年度(平成23年4月～平成24年3月)事業計画及び収支予算案を議決した。

(2)平成23年5月25日開催の平成24年度第1回評議員会及び第1回理事会において平成23年度事業報告案及び収支計算書案を議決した。

平成23年度事業計画

第1 事業計画

国産大豆については、その振興を図るための施策の一環として引き続き入札取引の透明化・適正化の観点から中立的な第三者機関が入札取引の実施主体となって市場を開設するとともに、その効率的な運営と入札結果の迅速な公表が求められている。

このような情勢のもとで、国の団体を特定した補助事業として、前年度に引き続き大豆価格形成安定化事業を実施する。

第2 会議の開催

- 1 大豆入札取引委員会
- 2 取引監視委員会

第3 大豆価格形成化事業(継続、国庫補助事業)

国産大豆の入札取引の実施主体として市場を開設し、入札取引の透明化・適正化を図るため、次の事業を実施する。

- ① 大豆入札取引委員会の開催
- ② 取引監視委員会の開催
- ③ 入札の実施
- ④ 入札結果の公表
- ⑤ 指標価格の作成・提供
- ⑥ 入札取引を円滑に実施するための情報の提供

平成23年度事業報告書

第1 事業の概要

国産大豆については、その振興を図るための施策の一環として入札取引の透明化・適正化の観点から中立的な第三者機関が入札取引の実施主体となって市場を開設するとともに、入札結果の迅速な公表が求められている。国が団体を特定した補助事業として前年度に引き続き、大豆価格形成安定化事業を実施した。

第3 事業実施の概要

1 大価格形成安定化事業（継続、補助事業）

国産大豆の入札取引の実施主体として市場を開設し、入札取引の透明化・適正化を図るため、関係団体の協力を得て次の事業を実施した。

(1) 大豆入札取引委員会の開催

第40回 平成23年10月27日

(2) 取引監視委員会の開催

取引監視のあり方に関する申し合わせ等を行う取引監視委員会（全員委員会）の開催

第24回 平成23年10月27日

第25回 平成23年11月9日

入札日当日に3名の取引監視委員が立ち会い、取引の公正が確保されているかを監視するとともに、落札を保留すべきロットの有無を検討、落札を保留すべきロットがあった場合、入札日翌日に当日立ち会った委員1名を含む3名の委員で入札状況等を検討し、不正な入札により無効とすべきロットの有無を確認した。

(3) 入札取引の実施

平成22年産

第6回 平成23年4月13日

第7回 平成23年4月27日

第8回 平成23年5月18日

第9回 平成23年6月8日

第10回 平成23年6月22日

第11回 平成23年7月6日

第12回 平成23年7月20日

第13回 平成23年8月10日

第14回 平成23年 8月24日

第15回 平成23年 9月15日

平成23年産

第1回 平成23年11月30日

第2回 平成23年12月14日

第3回 平成24年 1月18日

第4回 平成24年 2月 8日

第5回 平成24年 2月22日

第6回 平成24年 3月 7日

第7回 平成24年 3月21日

(4) 入札取引結果の公表

入札取引が実施された月の入札取引結果について資料を作成し、各月の末日に、入札取引参加者、報道機関に提供するとともに協会ホームページで公開した。

平成22年産入札取引年報（冊子）を作成し、入札取引参加者、関係機関・団体に配布した。

(5) 取引指標価格表の作成・提供

月ごとの入札結果に基づいて取引の指標となる価格（取引指標価格）を整理した表を作成し、売り手（全農、全集連）に提供した。なお、取引指標価格は、産地品種銘柄毎に当該月の加重平均値に基づいて作成している。

大豆価格形成安定化事業特別会計収支計算書

収 支 計 算 書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

大豆価格形成安定化事業		(単位：円)		
科 目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
事業収入	108,450,000	156,593,088	△ 48,143,088	
入札登録収入	1,900,000	1,750,000	150,000	
運営拠出金収入	6,550,000	5,910,888	639,112	
入札保証金収入	100,000,000	148,932,200	△ 48,932,200	
補助金等収入	26,560,000	26,560,000	0	
国庫補助金収入	26,560,000	26,560,000	0	
事業活動収入計	135,010,000	183,153,088	△ 48,143,088	
2. 事業活動支出				
事業費支出	35,010,000	99,196,028	△ 64,186,028	
入札業務等手当	10,436,000	9,420,281	1,015,719	
システム運営等管理運営費	22,531,680	23,877,472	△ 1,345,792	
入札取引に関する委員会開催等経費	2,042,320	923,135	1,119,185	
入札保証金返還金	0	64,975,140	△ 64,975,140	
事業活動支出計	35,010,000	99,196,028	△ 64,186,028	
事業活動収支差額	100,000,000	83,957,060	16,042,940	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	0	64,975,140	△ 64,975,140	
事業基金引当資産取崩収入	0	64,975,140	△ 64,975,140	
投資活動収入計	0	64,975,140	△ 64,975,140	
2. 投資活動支出				
特定資産取得支出	100,000,000	148,932,200	△ 48,932,200	
事業基金引当資産取得支出	100,000,000	148,932,200	△ 48,932,200	
投資活動支出計	100,000,000	148,932,200	△ 48,932,200	
投資活動収支差額	△ 100,000,000	△ 83,957,060	△ 16,042,940	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0		0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

4. 平成23年産入札取引に係る平成24年度協会業務・財務資料

(大豆入札取引業務部分抜粋)

平成24年3月25日開催の平成23年度第2回評議員会及び第3回理事会において、平成24年度（平成24年4月～平成25年3月）事業計画及び収支予算案を議決した。

平成24年度事業計画

第1 事業計画

国産大豆については、その振興を図るための施策の一環として引き続き入札取引の透明化・適正化の観点から中立的な第三者機関が入札取引の実施主体となって市場を開設するとともに、その効率的な入札結果の迅速な公表が求められている。

このような情勢のもとで、前年度に引き続き国庫補助事業として大豆価格形成安定化事業を実施する。

第2 会議の開催

- 1 大豆入札取引委員会
- 2 取引監視委員会

第4 大豆価格形成化事業（継続、国庫補助事業）

国産大豆の入札取引の実施主体として市場を開設し、入札取引の透明化・適正化を図るため、次の事業を実施する。

- ① 大豆入札取引委員会の開催
- ② 取引監視委員会の開催
- ③ 入札の実施
- ④ 入札結果の公表
- ⑤ 指標価格の作成・提供
- ⑥ 入札取引を円滑に実施するための情報の提供

平成24年度 大豆価格形成安定化事業特別会計予算

大豆価格形成安定化事業特別会計収支予算書				
平成24年4月1日から平成25年3月31日				
				(単位:千円)
科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①事業収入				
大豆価格形成安定化事業運営拠 出金等収入	8,450	8,450	0	
②補助金等収入				
大豆価格形成安定化事業費補助 金収入	25,718	26,560	△ 842	
③入札保証金収入	100,000	100,000	0	
事業活動収入計	134,168	135,010	△ 842	
2. 事業活動支出				
①事業費支出				
大豆価格安定化事業費支出	34,168	35,010	△ 842	
②入札保証金返還金	0	0	0	
事業活動支出計	34,168	35,010	△ 842	
事業活動収支差額	100,000	100,000	0	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
特定資産取得支出				
大豆価格形成安定化事業入札保 証金返還引当資産取得支出	100,000	100,000	0	
投資活動支出計	100,000	100,000	0	
投資活動収支差額	△ 100,000	△ 100,000	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

5. 大豆入札取引委員及び取引監視委員名簿

平成23年11月現在

大豆入札取引委員

◎武政 邦夫	社団法人大日本農会 会長
○盛田 清秀	日本大学生物資源科学部 教授
金井 健	全国農業協同組合中央会 農業対策部長
木内 節雄	全国納豆協同組合連合会 理事
郷 和平	全国豆腐油揚商工組合連合会 常務理事
高橋 徳一	元財団法人日本豆類基金協会 専務理事
地挽 裕介	全国農業協同組合連合会 園芸農産部次長
林 英伸	全国穀物商協同組合連合会 理事
藤川 満	全国主食集荷協同組合連合会 常務理事

(◎：委員長 ○：委員長代理)

取引監視委員

◎武政 邦夫	入札取引委員・(社)大日本農会 会長
○盛田 清秀	入札取引委員・日本大学生物資源学部 教授
高橋 徳一	入札取引委員・元(財)日本豆類基金協会 専務理事
竹之内 定雄	(社)全国農業改良普及支援協会 普及参事
多田 和子	NPO法人ちば農業支援ネットワーク 理事
千原 信彦	元日本農業新聞 論説委員
都甲 忠義	元農林水産省構造改善局計画部資源課 課長
平岩 進	元農林水産省北陸農業試験場 場長
矢野 勇夫	前(社)日本有機資源協会事務局 主幹

(◎：委員長 ○：委員長代理)

平成24年10月現在

大豆入札取引委員

◎盛田 清秀	東北大学大学院農学研究科 教授
○高橋 徳一	元財団法人日本豆類基金協会 専務理事
金井 健	全国農業協同組合中央会 農業対策部長
木内 節雄	全国納豆協同組合連合会 理事
郷 和平	全国豆腐油揚商工組合連合会 副会長
林 英伸	全国穀物商協同組合連合会 理事
藤川 満	全国主食集荷協同組合連合会 常務理事
本間 光敏	全国農業協同組合連合会 園芸農産部長
吉田 岳志	社団法人農林水産・食品産業技術振興協会理事長

(◎：委員長 ○：委員長代理)

6. 大豆入札取引委員会及び取引監視委員会の開催
(平成23年10月～平成24年10月)

(1) 大豆入札取引委員会

第40回 平成23年10月27日

- ① 平成22年産大豆入札取引及び取引監視経過について
- ② 平成23年産大豆入札取引運営方針について

第41回 平成24年5月31日

- ① 平成23年産大豆集荷状況について
- ② 平成23年産大豆入札取引実施状況について

第42回 平成24年10月23日

- ① 平成23年産大豆入札取引の経過
- ② 平成24年産大豆生産の状況
- ③ 取引監視委員の指名
- ④ 新法人移行の場合の業務規程の改訂
- ⑤ 平成24年産大豆入札取引登録状況
- ⑥ 平成24年産大豆入札取引運営方針

(2) 取引監視委員会（全体委員会）

第25回 平成23年11月9日

- ① 平成23年産大豆入札取引の見通しと運営方針
- ② 平成23年産取引監視の方針について

第26回 平成24年9月14日

- ① 平成23年産大豆入札取引状況
- ② 取引監視の状況
- ③ 入札取引運営上の問題の発生と処理経過
- ④ 取引監視手法の見直し